

令和四年度 学校推薦型選抜・社会人選抜入学試験

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は表紙を含めないで3ページあります。解答用紙は3枚です。下書き用紙は1枚あります。
試験中に、問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 試験開始の合図があったら、まず、すべての解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
- 4 解答はすべて解答用紙のそれぞれの解答欄に記入してください。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 解答用紙は記入の有無にかかわらず、持ち帰ってはいけません。
- 7 この問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

次の文章は経済思想家 斎藤幸平さんへのインタビューをまとめたものです。これを読んで、問いに答えなさい。

「気候変動を止めるには資本主義から転換するべきだ」と訴える著書「人新世の『資本論』」がベストセラーになっている。若き経済思想家・斎藤幸平さんは「私」に制限をかける時期にきている」とまで言い切る。いわば「脱私」の真意とは。

——今夏も世界は危険な暑さで、著書の主張を裏付けるようです。その一方、資本主義を終わらせるといふイメージがまだうまくわかないんです。

コモン（公）の領域を広げ、大きくなりすぎた「私」を縮小すると考えてみてください。例えばスペイン・バルセロナでは、賃貸物件を観光客向けの民泊に転用するともうかるので、賃貸に住む人を追い出す動きが活発化し、多くの市民は住む場所を失いました。いわば「私」の利益のための暴力です。そんな市場原理主義に怒った市民は左派市政を誕生させ、民泊の規制で「私」を縮小します。公営住宅の拡充も勝ち取りました。

——私有財産は中世の王侯貴族や領主から自由になるため生まれだし、だからこそ近代は豊かになれたのではないですか。

「私」が豊かになったのは「公」から奪った富の蓄積によるものです。元来、土地も森林も河川も、人々の間で共有・管理される「公」でした。しかし資本主義が勃興する際に「公」は私有地として囲い込まれ、無償だった自然の恵みも徐々に商品化されていったのです。天然水の商品化、水道の民営化などがその典型ですね。ただ、生命に不可欠なものの商品化の問題は露呈しやすい。欧州では水道の再公営化が進んでいます。「私有」が社会の基本になったのなんて、西欧でもたかだか2、300年のことなんです。

——再公営化とは、旧ソ連のような社会主義国ですか。

違います。たとえば、パリ市で水道が再公営化された際には市民が管理に参画する「市民営化」のスタイルがとられました。再公営化といっても国家や官僚が主導する必要はない。くじ引きでメンバーを選ぶ「市民議会」など、市民みなが意思決定に関わるかたちで、水や森林、電力などのコモンスを管理することもできるでしょう。

——コモンスの共同管理というと、年長の男性や声の大きい人が強い、昔の農村社会が頭に浮かびます。その時代に戻りたいとは思いません。

ポイントはそこです。家父長制や封建制に返ろうと言いたいわけではありません。戻るのではなく「アップデート」する。

これまでは地域的なしがらみに息苦しさを感じて、A田舎という「公」から逃れ、都会に出る人が多かった。ただ都会は労働時間も長く、ストレスフル。お金と時間に余裕がないと寂しいだけ。コロナ禍で人との距離もとらねばならず、さらに孤立化が進んでいます。

個人が共同体に埋没させられた時代。そして今のような「私」が肥大した時代。私たちはどちらも経験したからこそ、以前の閉鎖的な共同性とは違う新しい共同性、コモンズを求め、想像できるのだと思います。

——とは言え、音楽も映画も本でも、ネットや配信で「おすすめ機能」が発達し、前より「私」に特化された欲望を生きる時代になっていますよね。

それはデジタル資本主義で「私」の肥大化がさらに進んだ状態です。人々の趣味までデータとしてGAFAMといった巨大IT企業に集められ、金もうけの道具になっている。それが進んでいけば、私たちの「お気に入り」が実は企業が売りたいものによってあらかじめ操作されている事態になるでしょう。便利さに欺かれず、データについての扱いも「公」という視点が必要です。

——富裕層への世界的な資産課税強化を訴えてもいますが、絶大な政治力を持つ富裕層にそんなことができる政府って、いったいどんなものなんでしょう。革命や戦争など状況が劇的に悪化するハードランディングでしか世界は変わらないと、じつは斎藤さんは悲観しているのではないですか。

私たちはすでに地球環境が悪化した「人新世」の時代にいます。先進国でも異常気象による被害は大きく、原因である行き過ぎた資本主義をなんとかしたいという声は大きくなるばかり。最近、資本家の集まりでの講演をよく頼まれますが、彼らですら危機感を感じている。意識変革が起きる芽は出始めていると思います。

※文中の見出しは省略してあります。

(令和三年八月二十三日 朝日新聞・文化面「脱」4による)

問一

インタビュー記事から読み取ると、斎藤幸平さんの述べる「公（コモン）」とはどのようなものでしょうか。二〇〇字以内でまとめなさい。

問二

傍線部Aは、どのようなことか、本文から推測して一五〇字以内で示しなさい。

問三

傍線部Bはどのようなことかと思えますか。日常生活での事例をあげて二〇〇字以内で説明しなさい。